

峯尾重弘 会員

日本で学ぶ外国人留学生を支援する、日本の全ロータリークラブによる「多地区合同奉仕活動」です。これまでに支援した奨学生は109か国1万3902人にのぼり、日本の民間奨学財団では最大規模です。
“日本ロータリーの父”米山梅吉氏（1868-1946）の没後、彼の功績を偲ぶために何か有益な事業を、という声がロータリアンから上がりました。

「世界に“平和日本”を理解してもらうためには、まずアジア諸国の理解を得なければならない。アジアから一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、互いに信頼関係を築くことこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」。こうして東京RCで始められた「米山基金」が、全国ロータリークラブの合同事業として広がり、1967年7月、文部省（現文部科学省）から財団法人の許可を得るに至りました。

米山奨学事業の特長は、世話クラブ・カウンセラー制度によって、奨学生一人ひとりが日本での留学生活において精神的な支えを得、かつロータリー活動に密着することができる点にあります。ロータリーが求める平和の精神を胸に刻んで巣立った元米山奨学生には、韓国駐日大使やスリランカ警察庁長官、ネパールの女性職業訓練センター所長のほか、韓国・台湾でガバナーを務めた人もいます。元奨学生を中心に組織される米山学友会は海外を含めて27あり、災害時のボランティア活動やシンポジウムの開催など、社会に貢献する活躍をしています。
